

80分で関西圏へ！ 神戸市長を表敬訪問

4月16日、茨城～神戸空港を結ぶ国内定期便（スカイマーク航空・1日1便）が就航しました。従来では考えられない80分という早さで関西圏への移動が可能となり、また早期予約をすれば、最大で片道6千円を下回る運賃設定も大きな魅力となっています。

就航先の神戸市は誰もが周知する都市のブランド力を有する魅力ある街であり、また、空港から少し足を延ばせば、大河ドラマ放送で観光需要が高まる四国方面へ、さらに神戸空港を経由しトランジット（乗り継ぎ）で沖縄へも、これまでより安く・早く行くことができます。これら選択肢の多寡が就航路線の維持に欠かせない需要を喚起します。

4月20日から22日にかけて実施した議会全体研修では、神戸空港ターミナルビルを視察し、神戸市長を表敬訪問しました。同路線の就航で身近になる関西圏域との交流拡大を通じて、空港の利用促進が図られるとともに、本市まちづくりにおいても相乗しながら地域活性化に寄与していくことが期待されます。



矢田 神戸市長を表敬訪問し、小美玉市の魅力をPR！
（左から中村副議長、島田市長、神戸市長、野村議長）

陸海空ネットワークが進展 課題は茨城ブランド発信力

民間シンクタンクの09年地域ブランド調査によれば、茨城の認知度は全国48都道府県で最下位！との結果。しかしながら、首都圏に在し、平坦な地形、穏やかな気候、自然災害の少なさ等、その恵まれた地域環境は農業分野にとどまらず、企業の立地に関しても全国トップクラスの実績を得ています。さらに今、県北3港湾が統合され、平成23年の中頃には北関東道が全線開通し、茨城（常磐道）、栃木（東北道）、群馬（関越道）の北関東3県が横軸で結ばれます。そして茨城空港の開港、これら県がうたう陸・海・空ネットワークの具現化により、新たな交流創出への期待が高まっています。

こうした中、県では積極・効果的な情報発信を展開するため広報戦略室を新設、また、水戸市をはじめとした9市町村の首長懇話会、霞ヶ浦周辺7市町による地域資源活用連絡会の設立など、各自治体が地域資源を再認識し連携を強化しながら、県内外・世界へと茨城の魅力を発信する取り組みが進められています。ネットワークの一翼を担う本市においても、その受け皿として十分なソフト展開を図るため、官民あがての推進体制が求められています。

水戸市では開藩400年、市制施行120年を記念し、各種事業を企画・展開。

上段：支援の会が設立され県民運動として撮影された映画「桜田門外の変、（今秋公開）。そのオープンセット（千波湖畔）が公開中。

下段：茨城の誇る歴史的景勝地、借楽園にて梅大使、ボランティアガイドの方と議会広報委員。

（3月18日撮影）



編集後記

春は新しい門出の季節です。

小美玉市も合併から5年目を迎えました。今回の第一回定例議会では、

予算特別委員会を設置しての当初予算の審査、市民の生活基盤を支え、更なる飛躍を目指した重要議案を可決し、新年度がスタートしました。

そして3月11日、茨城の空より世界の空へと結ぶ茨城空港が開港し、七色の帆引船が一番機を迎え、無事に歴史的な一歩を踏み出しました。

百里の道も一歩から、将来への展望が開かれ上昇気流へと、環境と人に優しい空港として様々な期待を乗せての門出です。（文山口）



- 発行編集責任者
議長 野村 武勝
議会広報委員会
委員長 藤井 敏生
副委員長 小川 賢治
委員 山口 良元
福島 昌也
山本 信子
岩本 好夫
中村 強